

平成 25 年度国立大雪青少年交流の家第 3 回施設業務運営委員会事業部会議事要旨

日時：平成 25 年 11 月 19 日（火）13:30～15:40

場所：国立大雪青少年交流の家多目的研修室

運営委員出席者：大島部会長，山形委員，（代理：鈴木委員）永澤委員，目黒委員，浪岡委員
笠井施設業務運営委員会委員長（オブザーバー）

計 7 名

欠席者：坂東委員，植田委員

計 2 名

国立大雪青少年交流の家出席者：三上所長，澤田総務係長，佐藤室長，佐々木企画指導専門職
小川事業推進専門職，大畑事業推進室員

計 6 名

（●事務局 ○部会長 □委員）

●開会宣言

会議時間・資料確認，委員紹介，欠席委員の報告，施設業務運営委員会事業部会担当職員の自己紹介。

●事務局

最初に，本日配付した月別団体数及び利用者数比較表（H24/H25）

施設別・利用者アンケート集計結果一覧，当施設を利用されての総合的な満足度に基づき説明。

●部会長による議事進行

○部会長

それでは議題 1 点目の議事にはいる。

<議 題> 1 ゆーすフェスタ事業評価について

●事務局

前回の事業部会においていただいた意見を，参考に事業内容を検討し実施した。

「新しい公共」型の運営に着目して，「支え合いと活気ある」，「協働の場」を重視した。

来場者とプログラム協力者及び職員の意見の中で，検討すべき課題もあるので意見を頂戴し，次年度に反映させたい。

○部会長

ゆーすフェスタ事業評価について説明があった。

来場者数の目標数 1,300 人を上回ったようである。

意見または感想をいただきたい。

□委員

今回、美瑛町高齢者大学のすずらん大学が発表会として出演したことは、町と交流の家の連携の良さが伝わったと感じる。今後の展望として、地域の高齢者がもつノウハウ、例えば昔遊びといった伝承的な体験活動の指導者として関わることは日本の文化を伝える機会になる。一層工夫することで効果は高まるのではないか。

また、道立施設等の色々なクラフトブースがあり興味を誘った。

○部会長

高齢者に限らず、町の各種団体に声をかけることで次年度は出演団体が増加する可能性がある。

□委員

子供連れでの来場がとても印象強い。このことは、幼稚園と保育園訪問の効果が現れている。家庭の教育力向上につながると思う。

また、様々な体験を取り入れたブースは子供にとって貴重な体験の機会となっている。

国立大雪青少年交流の家と国立日高青少年自然の家、道立の施設が連携したことや青年団体の参画も意義がある。

○部会長

道内の青少年教育施設のチーム力が結集したフェスタですばらしかった。

□委員

南富良野町から20名で参加した。幼児から高齢者まで楽しんでいた。

時間的に参加できないブースもあったことから次年度は、前夜祭も考えてはどうか。1泊2日で参加したい。

●事務局

委員の方々が企画して、運営者側として参画いただいたことが評価されると考える。

□委員

今年度は、昨年度に比べ来場者数が減になることを覚悟で、自然環境を活かした体験活動をコンセプトに企画した。このことは、本来あるべき姿であることから、次年度は、今年度の反省を踏まえ課題を修正して計画する。

また、「食」をテーマとした取組をしても良いのではないかと。企画全体の中で、高校生の発表の場を提供することも一つの方法と考える。

□委員

家族連れが多く驚いた。以前の勤務地で集客に苦労した。プログラムも素晴らしく次年度も同じコンセプトで実施したほうがよい。

●事務局

前回の部会でコンセプトを決め、大雪らしい「体験」を前面に出したフェスタを実施した。もう一つのテーマを「食」とした。

□委員

参加者数は前年度より減少する覚悟であったが増になった理由は何か。

●事務局

昨年より予算を倍増し、外注でインパクトのあるチラシを作成するなど広報に力を注いだ。プログラムもわかりやすく表記したり、参加対象を広くするため、出演者も工夫した。

○部会長

チラシの効果は大である。

多種多様なプログラム、参加者も分散していた。

大雪のイメージが、子供をとおして浸透した。

□委員

コンセプトを変更し、今回実施したことで方向性は見えた。今回の反省もでていっているので、継続的に続けていく。

食の提案も良かった。

市内の高校へのPR、部活動の発表の場やボランティアとしても関わられる可能性はある。

□委員

「食」を中心とした「体験」に興味を持った。

「食」に関する子供達の「体験」は良かった。また、大学生主体のブースもあれば近隣の大学が参画できるのではないか。

○部会長

次年度に向けて検討すべきこと、委員の皆様からの意見を参考により良い事業内容や継続すべきという意見をいただいた。事務局はこれらの意見を参考に次年度の準備をお願いしたい。

○部会長

議題2点目の議事にはいる。

大雪冬のレク事業計画（案）について事務局から説明をお願いしたい。

<議 題> 2 大雪冬のレク事業計画（案）

●事務局

子どもゆめ基金事業体験の風リレーションシップ事業である。

子供達へのプログラムになる。「子どもクロスカントリースキー教室」と「大雪キッズアドベンチャーランド！冬編」の2つの事業。

ゆーすフェスタ同様、委員の皆様の意見により良い事業内容にしていきたい。

○部会長

事務局から説明があった。質問も含めて、協働と参画の観点で意見ををお願いしたい。事業担当者もいることから、質問も受ける。

□委員

2年目の事業とのことだが、昨年の参加状況を教えていただきたい。

●事務局

親子参加もあったので、申込開始2日で定員に達した。

広報活動は、美瑛町内、旭川市近郊。

□委員

今回参加対象を小学校3年生から6年生にする理由はなにか。

●事務局

昨年、低学年で実施したがXCスキーの初心者の方も多く滑るまでに時間がかかった。

高学年であれば、XCスキーになれるのも早いと考える。

旭川市内にチラシを配付すると定員に達するのが早い。

□委員

単純に親子での参加の方が良いと思い質問した。

□委員

「歩くスキー」コースの設定はどうなっているのか。また、「冬の森」の場所はどこか。

●事務局

グラウンドを「歩くスキー」コースとして設定している。

また、「冬の森」は交流の家周辺をスノーシューで散策する予定である。

□委員

「歩くスキー」事業は大人も参加希望があると思う。

□委員

気温はどうか。

●事務局

2月下旬なので-5℃~-20℃ぐらい。

□委員

山形で勤務していた時「冬の学校」という事業を実施していた。またぎの人から、かんじき

のはき方を教えてもらった。

2月は寒いので3月の方が良いのでは。

○部会長

吹雪でも実施した方が良い。安全管理も重要視しながら体験活動をすすめてほしい。

●事務局

去年はスポーツ選手活用事業で、夏見円さんに指導者として来ていただいた。

今年は、同事業がないため講師を紹介してもらいたい。

○部会長

情報があったら、提供をお願いしたい。

屋内、屋外のプログラムとも美瑛町内の小学生の体験したことのないプログラムを実施した方が
良い。

□委員

屋外活動については、大体プログラムに入っている。

●事務局

「新しい公共」型でもあることから、美瑛町、道立施設等との協力（協働）で実施したい。

○部会長

議題3点目の議事にはいる。

平成26年度運営計画（教育事業等）について事務局から説明をお願いしたい。

<議 題>3 平成26年度運営計画（教育事業等）

●事務局

運営計画素案、機構本部運営方針（案）に基づき説明。

素案であることを理解いただき、これを前提に委員の皆様から意見をいただきたい。

○部会長

平成28年度が終了年度となっている中期目標と中期計画、また平成26年度の機構本部からの
事業方針（案）に基づく大雪交流の家としての事業方針素案が提示された。

ポンチ絵に関して、さらに別紙で説明がされたが、意見より質問の方がアイデアが生まれること
もあるので、積極的に質問、意見ををお願いしたい。

○部会長

稼働率50%とあるが、日帰りは入るのか確認したい。

●事務局

日帰りは入らないので、宿泊利用者数を増やしていかななくてはならない。
宿泊8割，日帰り2割を理想にしている。

○部会長

貸館業ではないので，教育事業と研修支援を柱として宿泊者を増やしつつ体験活動を充実すべき。

□委員

道外からの利用はあるのか。

●事務局

利用はあるが，数字は減っている。

□委員

修学旅行での利用はどうか。

●事務局

道内は，宿泊研修が多い。

□委員

かつて宿泊研修といえば大雪であった。現在スキー研修は市内のホテルに宿泊している。
生徒よりも引率の先生が昔のイメージもあり大変だと感じている。
学校の先生方に，費用面で安いことを強調して広報するのが有効ではないか。

□委員

昔の研修は，非日常的な体験をさせることだったが，現在は学校環境に慣れさせるオリエンテーション的役割に変わってきている。
長期宿泊は大事。

○部会長

昔の特色は「厳しさ」だった。教育機能の充実は，「挨拶」「整理整頓」「掃除」だけのコンセプトで良いのか。
施設の存続意義は理念が大事である。

□委員

小学校・中学校・高等学校の利用について減少しているようだが，企業の研修は考えているのか。

●事務局

広報部会において展開中。

○部会長

議題4点目の議事にはいる。

「平成25年度業務実績に係る自己点検評価」（上半期）について事務局から説明をお願いしたい。

<議 題> 4 平成25年度 業務実績に係る自己点検評価（上半期）

●事務局

国立大雪青少年交流の家「平成25年度業務実績に係る自己点検評価」（上半期）に基づき説明。

○部会長

事務局から業務の実績に係る自己点検評価についての説明があった。

本件は、上半期の状況として設定した目標の進捗度を計り、下半期に向けての努力事項を確認すること。12月4日に機構本部で説明する機会がである。

内容を確認いただき評価の原案について承認いただいた後、部会として確定させていただきたいと考えている。

本日は、内容について意見・質問をいただき、評価は、11月20日（水）までに事務局の指定のFAX又は電話で連絡をお願いしたい。

□委員

__学校訪問等で外に出ることが多いようだが、機構本部の評価方法が、宿泊棟の稼働率だけに特化せず、多様な見方で評価したほうがよい。

●事務局

12月4日（水）に機構本部において管理運営の在り方等に関する調査研究協力者会議が開催される。その時に、進捗状況の説明を求められていることから、大雪の添付資料として自己点検評価表を提出する。

会議終了

閉会挨拶

閉会宣言